

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方(令和8年7月15日 西山幼稚園開催分)

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
1	通園負担と人口流出	中学校区ごとに1園とのことですが、岩園幼稚園は遠すぎます。車が使えない家庭や下の子を連れての通園は非常に困難です。また、市立幼稚園が減ることで、子育て世代が他市へ流出してしまうのではないかと思います。	市立幼稚園が遠くなることは心苦しく思っています。通園時の安全対策としてソフト面でどのようなことができるかは検討したいです。市立の認定こども園や私立も含めた多様な就学前施設も含めて選択肢があり検討いただけるような、選ばれるまちづくりに、引き続き努めていきます。
2	存続園の選定と跡地活用	芦屋川より西に幼稚園がなくなってしまう。なぜ岩園幼稚園を残すのでしょうか、園児数が多いからでしょうか。また、閉園後の跡地は地域の拠点として活用してほしいです。卒園したこどもたちが大きくなってからでも帰って来れる、集まれる場所としても必要だと思います。	園児数だけでなく、答申を踏まえ小学校と隣接していることや、建物の耐用年数などその他のことも総合的に考慮して判断しました。跡地活用は未定ですが、いただいたご意見も踏まえ、市長部局と協議、検討していきます。
3	3歳児保育と閉園理由	3歳児保育を導入していれば存続できたのではないのでしょうか。閉園の本当の理由は予算や人材の問題なのではないのでしょうか。	3歳児保育が園児数維持に一定寄与する面はありますが、市立の認定こども園も含め市内の就学前施設全体で3歳児保育のニーズ量は充足しているため、これ以上拡大することは難しいと考えます。閉園の判断をしたのは、こどもの成長に「集団の中での経験(一定の人数)」が必要であることや、市全体として就学前教育・保育の質の維持向上を図るために市立幼稚園が果たすべき役割、機能を踏まえ、中学校園域に1園を残すという審議会の答申を踏まえたものとなります。
4	コーディネーター制度	今後、他の幼稚園が園児数減少で閉園した場合、「幼小接続コーディネーター」の施策も成り立たなくなるのではないのでしょうか。	本制度の目的は、最終的に各施設の先生が自走して連携できる関係性を築くことにあります。得られた知見を公私問わず市全体の施設に還元し、貢献していく施策だと考えています。
5	在園児の心のフォロー	もし閉園となった場合、現在の在園児の心のフォローはどのように考えているのでしょうか。	過去の経験からもこどもたちの心のケアは非常に重要だと認識しています。教育委員会だけでなく、現場の幼稚園・小学校の先生と連携し、こどもたちの様子を共有しながら丁寧にフォローしていきます。
6	情報提供と文化継承	情報提供をもっと早くしてほしいかったです。また、幼稚園が担ってきた多世代交流や地域の文化が途絶えるのは非常に惜しいと思います。	情報提供のタイミングについてのご意見は重く受け止め、今後も適切に情報発信ができるよう努めます。跡地活用を検討する際、地域の文化や繋がりをどう生かすか、いただいたご意見をふまえ、市全体で協議、検討していきます。
7	決定見直しとこどもへの伝達	閉園の決定を考え直してもらえないのでしょうか。また、本当に閉園となる場合、こどもにはどのように伝えればよいのでしょうか。	学校教育審議会での1年間の議論を経た答申は重く受け止めていますので、教育委員会としては現状の案で市議会に諮る方針です。こどもたちへの伝え方については保護者のかたに押し付けることなく、教育委員会と現場の先生と一緒に丁寧を考えていきたいと思っています。

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方(令和8年7月15日 西山幼稚園開催分)

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
8	再考の要望	幼稚園をなくせば子育て世代が芦屋市を選ばなくなります。 なんとか幼稚園を残してもらえよう、再度掛け合ってほしいです。	皆様の幼稚園に対する熱い思いは教育委員会としてもありがたいと思っています。しっかりと受け止め今後に活かせる部分は活かしていきたいと考えています。 しかしながら、学校教育審議会においても市立幼稚園のこどもだけでなく、本市のすべてのこどもたちのためにという観点でご議論いただき答申をいただいていることをご理解ください。 子育て世代の支援策については市長部局とともに市全体で考えていきたいと思っています。